
頭取さんとアリスさん

青い猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

頭取さんとアリスさん

【コード】

N0860Q

【作者名】

青い猫

【あらすじ】

野球に熱中するアリスさんに頭取さんがイタズラを仕掛けます。

御伽学園の片隅に、ボロボロのプレハブ小屋がありました。そこには恩を貸しに人助けする怪しい組織、御伽銀行なる組織がありました。

その地下には最新の設備が設置された部屋が存在し野球中継に熱中して手に汗握っている銀行の副頭取であるアリスさんがいらっしやいました。

一生懸命テレビを見ている姿はとても可愛いらしいものでしたが、そんな一生懸命な姿を見ているとからかいたくなるのが、人の性分です。彼女のいとこ兼幼なじみである頭取さんはこれまで野球を見ている彼女に対していくつものイタズラをしてきました。もちろんその後には絶対冷度の視線の無言の責め地獄が待っていました。

それに最近は彼女も、相手にすれば相手が喜ぶだけというのが分かってきたのか、頭取さんのイタズラに対して無反応になっていました。

頭取さんはそれがまた面白くありませんでした。

やはりちよっかいをかけるからには、なにかしらの反応を返して欲しいものです。

頭取さんはやけ顔のままテレビ画面に集中しているアリスさんに近づいて行きました。

「ああ！それはボールではないんですか！？」

テレビ画面中の審判さんにむかい。悲鳴がかった声で非難の声をあげるアリスさん。テレビ画面のなかではそのまま試合は続行され、打席に立つバッターは後一人。試合は終盤になっていました。

どうか打って下さい！」

アリスさんはテレビに向かっててを差し出しました。まるで超能力者のように。画面向こうのひとにパワーを送っているようです。それを撮っておけば後でアリスさんは大ダメージなのでしょうが、頭取さんはそんなことはしません。何故ならそれより面白いことがあるからです。

白球を持ったピッチャーが振りかぶった瞬間。
世界が真っ暗になった。

「イヤあああああ」

そうです。頭取さんは、一番いいところで目をふさぐというアニメファンにしたら殺されそうな鬼畜な行いをしたのです。

「何てことするんですか。見逃したじゃないですか！」

「僕は見てたよ。良かったね勝ったよ。サヨナラホームランで」「この、この、ごくつぶしの昼あんどん！おかま！」

どうやら相当ショックを受けたらしくアリスさんのポーカーフエイスは崩れ去っていました。

あはは、ごめんね」

何とも言えない達成感に包まれながら、頭取さんはアリスさんの泣き顔を愛おしいそうに見ていました。

おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0860q/>

頭取さんとアリスさん

2011年1月16日06時41分発行